生成AIがもっともらしい誤りを答えるわけ

生成AIの答えに、なぜまちがいがまざることがあるのだろう

例

ひかり小学校（架空）の、昨年の
運動会で勝ったのは何組？

**赤組が勝ちました。最後の
リレーで逆転しました。**

〜〜 事実かどうか分からない部分

生成AIの答え

AI

なぜ？　生成AIは、次に来そうなことばを選んでつないで、文をつくる

昨年の運動会で勝ったのは →

赤組	45%
白組	40%
青組	15%

次に来そうなことばの確からしさ（例）

→ **が勝ち…** と続ける

学んだたくさんの文章の
「ことばのつながり」から選んでいる。
事実を調べて答えているわけではない。

知らないことや学習していないことでも、
ありそうな文をつくってしまうことがある。
これを「ハルシネーション」という。

どうする？

ほかの資料で確かめる
本・公的機関のサイトなど

出典を開いて見る
元の資料に書いてあるか

最後は人が判断する
使う・直す・使わないを決める

新しいAIでも、このまちがいを完全になくすことは難しいとされている。

※ 例と確からしさの数は架空。しくみを単純にした説明（資料を調べてから答えるAIもあるが、それでもまちがいは起こる）。